

岩松 だまちづくり だより

第 10 号
編集・発行
岩松地区まちづくり協議会
岩松まちづくりセンター内
電話 63-5210
岩松地区の人口
男 4,896人
女 5,100人
計 9,996人
(4,296世帯)
令和4年7月1日現在



新生まちづくり協議会として 新たな一歩を踏み出す！

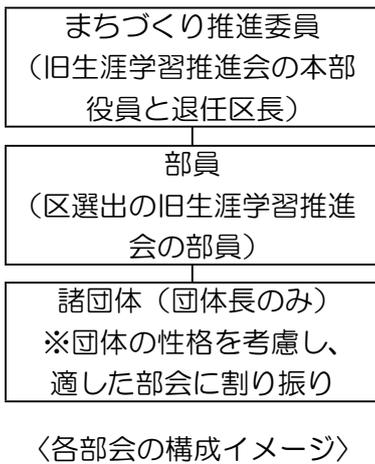
岩松地区まちづくり協議会
会長 大芝 收

半世紀以上歴史のある社会教育実践団体として活躍してきた「富士市生涯学習推進会連合会」が六月に解散しました。

岩松地区においても一年間かけて検討を重ね、その結果、組織を大幅に見直して岩松地区生涯学習推進会

がまちづくり協議会へ移行することになり、五月二十一日(土)に解散総会を行いました。その直後に開かれた岩松地区まちづくり協議会(以下、「まち協」)の総会で新たな組織体制が審議され、賛成多数で承認されました。

以前と大きく変わった点ですが、



これまでは「区長会長」と「かりがね祭りの協議会会長」と「かりがね祭の実行委員長」を兼務していましたが、今年度からその状態を解消しました。また、部会を再編したことや行事の開催にあたって実行委員会形式を導入したことも大きな変更点です。

当面はこの体制で進めていきます。また、今後の課題として、「環境部会」の立ち上げを考えていきます。

行事名	氏名	まち協内役割	町名
体育祭	本谷 島作	理事	水神
文化祭	大芝 收	会長	四丁河原下
安全大会	島田 智嘉	相談役	林町
かりがね祭り	加藤 昭夫	元実行委員長	橋下

〈各実行委員会の詳細〉

部会は、「総務企画部会」「青少年育成部会」「生活安全部会」「体育保健部会」の四部会としました。各部会は左上の図のように構成されています。

実行委員会は、左の図のように四つ設けました。各行事を開催するにあたっては、実行委員長を中心に進めていくこととなります。

事業報告 その1

コスモスの里づくりと富士川流域河川一斉清掃



富士川流域河川一斉清掃



コスモスの里づくり

かりがね堤での「コスモスの里づくり」と「富士川流域河川一斉清掃」は、かりがね祭りの事業の一環として長年行われてきました。

しかし、今年度から岩松地区単独の祭りとして再スタートするにあたり、実行委員会を立ち上げています。最中でありましたので、「コスモスの里づくり」は区長会で、「富士川流域河川一斉清掃」はまち協で行うことを決め、七月三日(日)に行いました。

事業報告 その2

ソフトボール大会



令和四年六月五日(日)に、岩松小学校・岩松中学校のグラウンドにてソフトボール大会が開催されました。
梅雨の中、天候に恵まれ、昨年は四チームの参加でしたが、各地区皆様の協力もあり、今年は六チーム参加のもと、実施することができました。また、参加チームの方々には感染対策を取っていただきありがとうございました。

岩松地区まちづくり協議会
体育保健部会会長 望月 清勝

事業報告 その3



ファミリーバドミントン大会



お知らせ

令和四年八月四日(木)に開催を予定しておりました岩松地区行政懇談会は、直前における新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を考慮し、延期となりました。

今後につきましては、感染状況をふまえ、十月以降の開催を検討していきます。

令和四年七月三日(日)岩松小学校体育館において、昨年につき、今年もファミリーバドミントン大会が開催されたことを大変喜ばしく思います。新型コロナウイルス拡大予防のため、いろいろな行事が中止になる中で、感染症対策を徹底していただいたおかげで大変良い大会となりました。

岩松小学校体育館が七月いっぱいまで全面改修ということで、現体育館最後の行事となりました。来年リニューアルした体育館でファミリーバドミントン大会が開催できることを期待しています。

最後にファミリーバドミントンを始め、他の体育事業にも多くの皆様に参加、応援していただきたく、お願い申し上げます。

副会長 石川 隆文

岩松地区まちづくり協議会

事業報告 その4

岩松地区防災会議



令和四年七月二十八日(木)に岩松地区防災会議を開催しました。

内容としては、昨年と同様に富士市防災危機管理課から「富士川逃げどきマップについて」の講話、そして新たに富士市河川課から「岩松地区の用水路と水門について」の講話がありました。

昨年も新型コロナウイルス感染症急増の中で開催されましたが、会場が旧まちづくりセンターであったため、わずか十名程度しか出席できませんでした。今年は新センターでまち協の役員・諸団体を中心に四十五名が出席しました。

岩松地区の住民にとって特に知っておくべきことは、地区内の標高が低いため、河川洪水が発生する可能性がある場合には、岩松小学校や岩松中学校・岩松まちづくりセンターは早期避難場所にならないことです。そして、早めに高台や高い建物への避難、自宅であれば二階以上への垂直避難をすることが求められています。

河川洪水による浸水想定区域は、市役所やまちづくりセンターで配布している「富士川逃げどきマップ」で確認できますので、ぜひ御活用ください。

地域防災指導員 秋山 喜英